

プランクトンを採集しよう！(3)自由設計編 学習指導要領との対応		
学年	教科	学習内容
小学校3年	理科	<p>B 生命・地球            (1) 身の回りの生物            身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、それらの様子や周辺の環境、成長の過程や体のつくりに着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。            (ア) 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。また、周辺の環境と関わって生きていること。            イ 身の回りの生物の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、身の回りの生物と環境との関わり、昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについての問題を見いだし、表現すること。</p>
小学校5年	理科	<p>B 生命・地球            (2) 動物の誕生            動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。            (ア) 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえること。            イ 動物の発生や成長について追究する中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。</p>
小学校6年	理科	<p>B 生命・地球            (3) 生物と環境            生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。            (ア) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。            (イ) 生物の間には、食う食われるという関係があること。            (ウ) 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。            イ 生物と環境について追究する中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
小学校5/6年	家庭科	<p>B 衣食住の生活            (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作            ア 次のような知識及び技能を身に付けること。            (ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。            (イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。            イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。</p>
中学校1年	数学	<p>B 図形            (2) 空間図形について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア 次のような知識及び技能を身に付けること。            (ア) 空間における直線や平面の位置関係を知ること。            (イ) 扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体や錐すい体、球の表面積と体積を求めること。            イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。            (ア) 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすること。            (イ) 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現すること。</p>
中学校3年	数学	<p>B 図形            (3) 三平方の定理について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア 次のような知識及び技能を身に付けること。            (ア) 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。            イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。            (ア) 三平方の定理を見いだすこと。            (イ) 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。</p>
中学校	理科(第2分野)	<p>(1) いろいろな生物とその共通点            身近な生物についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。            (ア) 生物の観察と分類の仕方            ⑦ 生物の観察            校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。            ⑧ 生物の特徴と分類の仕方            いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できることを理解するとともに、分類の仕方の基礎を身に付けること。            (イ) 生物の体の共通点と相違点            ⑨ 動物の体の共通点と相違点            身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解すること。            イ 身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。</p>
中学校	理科(第2分野)	<p>(7) 自然と人間            自然環境を調べる観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。            ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けること。            (ア) 生物と環境            ⑦ 自然界のつり合い            微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けて理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだして理解すること。            ⑧ 自然環境の調査と環境保全            身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。            イ 身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。</p>
小・中学校	総合的な学習の時間	